

議会からのたより



議会の主な動き

(令和2年5月～令和2年7月)

5月13日

議会全員協議会

5月22日

議会運営委員会

6月25日～6月26日

留萌地域総合開発期成会要望のため議長留萌、札幌市に出張

7月9日

議会全員協議会

常任委員会合同会議

7月10日

議会報発行特別委員会

7月16日～7月17日

留萌地域総合開発期成会要望のため議長札幌市に出張

7月27日

議会報発行特別委員会

7月31日

留萌管内町村議会議長会臨時総会及び懇談会出席のため議長初山別村に出張



第2回臨時会

5月13日の1日間を会期として開催し、報告2件、補正予算2件、条例の改正2件の合計6件の議案が提案され、原案どおり可決し、閉会した。

報告

- ◆ 専決処分報告について
- ◆ 税条例の一部改正について
- ◆ 令和元年度一般会計補正予算

行政報告

- ◆ 新型コロナウイルス感染症について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症における町内行事の状況について
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に係る各学校の臨時休業及び学校行事等の変更に

審議事項

- ◆ 国民健康保険条例の一部改正について
- ◆ 後期高齢者医療に関する条例の一部改正について

主な補正予算

【一般会計】

- ・ 民間賃貸職員住宅建設助成支援事業補助金 2,000万円削除
- ・ 特別定額給付金 26,000万円新規
- ・ 生活支援助成券交付金 2,600万円新規
- ・ 飲食店休業支援金 260万円新規
- ・ 子育て世帯への臨時特別給付金 277万円新規
- 【国民健康保険特別会計】
- ・ 傷病手当金 50万円新規

第3回定例会

6月12日から15日までの4日間を会期として開催し、報告2件、同意12件、候補者の推薦1件、計画の変更1件、補正予算2件、条例の改正4件、工事請負契約1件、財産の取得2件、意見案3件、発議1件の合計29件の議案が提案され、原案どおり可決し、会期を3日間残して閉会した。一般質問は、山下議員、山本議員の2名が行った。

報告

- ◆ えんべつリゾート開発株式会社 社の経営状況について
- ◆ 繰越明許費繰越計算書について

行政報告

- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策の進捗状況について
- ◆ 高齢者叙勲の受章について
- ◆ キャッスルガー市との姉妹都市交流について
- ◆ 令和元年度各会計の決算概況について

◆ 令和2年度国及び道所管の事業概要について

同意

- ◆ 固定資産評価審査委員会委員の選任について
- ◆ 長谷川繁男氏（北里）の選任に同意した。
- ◆ 農業委員会委員の任命について
- ◆ 左記11名の方の任命に同意した。

- 北島 次幸 氏（旭）
- 大西 幸生 氏（共栄）
- 茂野 敏彦 氏（久光）
- 森 雅昭 氏（富士見）
- 酒井 嗣男 氏（中央）
- 橋本 浩一 氏（丸松）
- 妻沼 浩 氏（北里）
- 島内 一彦 氏（丸松）
- 杉本 栄治 氏（啓明）
- 中道 豊見 氏（幸和）
- 渡邊 理香 氏（本町3）

審議事項

- ◆ 人権擁護委員候補者の推薦について
- ◆ 和田裕克氏（本町3）の推薦に賛成した。

◆ 過疎地域自立促進市町村計画の変更について

- ◆ 固定資産評価審査委員会条例の一部改正について
- ◆ 税条例の一部改正について
- ◆ 手数料条例の一部改正について

◆ 介護保険条例の一部改正について

- ◆ 工事請負契約の締結について
- * 工事名 公営住宅建設工事（建築主体工事）
- 契約金額 9,889万円

◆ 財産の取得について

- ◆ 旭温泉送迎バス 1台
- ◆ デジタルX線テレビシステム一式

主な補正予算

- 【一般会計】
- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策事業費

- 900万円増
- ◆ オロン地区新規就農者支援助事業負担金

- 35万円新規
- ◆ 幸和北浜線法面補修工事
- 360万円新規

意見案

◆ 看護師の全国を適用地域とした特定最低賃金の新設を求める意見書

提出者 木村議員

賛成者 山本議員、白井議員

◆ 介護従事者の全国を適用地域とした特定最低賃金の新設を求める意見書

提出者 木村議員

賛成者 山本議員、白井議員

◆ 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

提出者 小森議員

賛成者 柏谷議員、山本議員

意見案は採択され、国の関係機関に送付した。



町政を問う

第3回定例会「一般質問」

再質問



問 新型コロナウイルスの感染拡大による、国の緊急事態宣言が4月6日に発出され、5月31日に全面解除となった。北海道では、2月27日から各学校の休業要請を発出し、町内の小中学校も2月27日から5月31日までの間、分散登校を挟みながら休業をしていた。長期にわたる休業期間中、児童生徒の生活習慣の乱れや学習の遅れなどが問題になっている。再流行となった場合に、児童生徒の生活習慣の確保及び学習機会の提供などの対策について、教育委員会の考えを伺う。

答 新型コロナウイルス感染症による学校の臨時休業長期化により、学校では授業時数を確保するため、学校行事の見直しや夏休み・冬休みの期間短縮などの対応を余儀なくされている。心配された生活習慣の乱れについては、分散登校の効果もあり、円滑に学校が再開されている。

国は、今後、再び臨時休業となった場合の対応として、学習に著しい遅れを生じることがないよう、可能な限りオンライン教材を活用した学習、同時双方向型のオンライン指導を通じた学習などICT等を活用した家庭学習と教師による対面での学習指導や学習状況の把握の組み合わせにより、児童生徒の学習及び生活を支援することや、遠隔教育に関して、家庭の通信環境を把握し、家庭にあるスマートフォン、モバイルルーターなどを活用できる場合は通信手段として活用することを求めている。

本町は臨時休業期間中、IP告知端末を使って、担任が子どもたちの生活・健康状態や家庭学習状況の確認を行っており、また、児童生徒に一人一台のタブレット端末を整備していることから、分散登校時に持ち帰らせて、家庭学習の補助として有効に活用をしている。今後、更なる感染状況の悪化により再び臨時休業を強いられることも予想され、また、ICT化が加速し、学校における教育活動の一部をオンラインで実施するなどの取り組みが更に促進されることが想定されるため、早急に学校における取り組みを強化し、児童生徒の遠隔学習を可能にすることが重要であり、各家庭の通信環境の実態についても、現在、調査を進めている。長期臨時休業等における子ども達の生活習慣の確保及び学習機会の提供については、オンライン環境の整備が必要不可欠であることから、本町における取り組みを加速させ、オンライン学習に必要な整備等を迅速かつ効果的に進めて行きたい。

問 オンライン学習を行うためには、家庭でのインターネット環境の整備がとても重要であるが、環境のない家庭についてどのような対応をとるか伺う。

答 新型コロナウイルスの感染拡大によって、再度学校が長期臨時休業となった場合、オンライン学習の取り組みは必要なものと考えており、未整備世帯へのオンライン学習は、現在、公共施設、学校、マナビの図書室などが整備されているため、これらの施設を利用して学習に参加してもらおうよう検討している。

山下議員

問 新型コロナウイルス再流行時の学校対応は？

佐藤教育長

答 オンライン学習の提供に向けた整備を進める

答 新型コロナウイルス感染症による学校の臨時休業長期化により、学校では授業時数を確保するため、学校行事の見直しや夏休み・冬休みの期間短縮などの対応を余儀なくされている。心配された生活習慣の乱れについては、分散登校の効果もあり、円滑に学校が再開されている。

本町は臨時休業期間中、IP告知端末を使って、担任が子どもたちの生活・健康状態や家庭学習状況の確認を行っており、また、児童生徒に一人一台のタブレット端末を整備していることから、分散登校時に持ち帰らせて、家庭学習の補助として有効に活用をしている。今後、更なる感染状況の悪化により再び臨時休業を強いられることも予想され、また、ICT化が加速し、学校における教育活動の一部をオンラインで実施するなどの取り組みが更に促進されることが想定されるため、早急に学校における取り組みを強化し、児童生徒の遠隔学習を可能にすることが重要であり、各家庭の通信環境の実態についても、現在、調査を進めている。長期臨時休業等における子ども達の生活習慣の確保及び学習機会の提供については、オンライン環境の整備が必要不可欠であることから、本町における取り組みを加速させ、オンライン学習に必要な整備等を迅速かつ効果的に進めて行きたい。



山本議員 問 家庭内介護の現状と課題

笹川町長 答 地域包括ケアシステムの構築を進め、支援する



問

少子高齢化が進む本町の中で、介護を必要としている方々があり、在宅で家族や近親者の方が介護しているケースが増えている。また、要支援への有償ボランティアによる、買い物、掃除、食事などの代行事業は、社会福祉協議会で行っているが、人手不足と聞いている。介護は高齢者だけではなく、障がいのある方、難病の方など様々であり、その介護を在宅で行っている介護者は、仕事や旅行、趣味などの自分のための時間や行動が制限され、身体的、精神的、経済的な負担や不安を抱えながら生活されている。介護疲れによる事件の報道もあり、介護者が自分の人生を生きるための支援という視点が必要だと考える。

そこで町長に3点伺う。

1 支援体制は

問

本町では、在宅で介護を行う家族などに対する相談・支援体制はどのようになっているのか。

答

介護保険制度では、家族介護支援事業を地域支援事業の一つとして位置づけしており、本町では、既に全ての町民を対象に、適切な介護知識・技術の習得やショートステイなどの適切な利用方法の理解を目的とした家族介護教室の開催及び重度要介護者を介護する家族に対し、精神的負担の緩和や経済的支援として在宅介護手当の支給などの取り組みを実施している。地域包括支援センター及び福祉係が相談窓口となり、介護者本人についての相談のほか、介護者からの悩みの相談も寄せられており、関係機関と連携し、介護認定者の場合については、家族介護者の息抜きに有効なショートステイの提案などを行っている。

2 事業拡充について

問

買い物、掃除、食事などの代行事業等への支援により拡充できないか。

答

介護保険の認定者及び障がい者については、介護保険及び障がい者自立支援制度の中で行われている。通常の方についても、社会福祉協議会独自の事業になる。町としては、なるべく事業を利用しなくても、自立した日常生活を行うことができるようになっていただくことを目指しており、現在のところこの事業の拡充は考えていない。

3 在宅介護者の包括的な支援

問

在宅介護者の抱える様々な課題を関係機関の連携による包括的な支援が必要だと考えるが、町長の考えは。

答

在宅介護者を抱える介護者にとって、精神的、肉体的な負担から虐待や介護放棄

などの問題に発展する可能性も指摘されており、心身の介護負担の軽減を図るため、医療と介護の連携推進や介護サービスの充実、地域の見守りなど、在宅での生活支援を図ることが重要であり、在宅介護の課題には、地域との連携や社会資源を活用した地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組むことが必要と考えている。構築に向けた取り組みを着実に進め、在宅で介護を行う方を支援していく。

再質問

問

構築に向けた取り組み状況は。

答

現在、社会福祉協議会と協議をしているところであり、今後に向けて介護者の補助・支援を続けていきたい。形としては遠別町訪問介護相当サービス、または、遠別町訪問型生活援助サービスなど、独自でワンランクアップした形の支援ができないか模索している。

町長からの行政報告（抜粋）第3回定例会



新型コロナウイルス感染症対策の進捗状況について

国の特別定額給付金事業の進捗状況につきまして、4月27日の住民基本台帳世帯数1,334世帯、人口2,595人に対し申請書を送付し、6月10日現在、97・4%に当たる1,299世帯、2,545人、2億5千450万円の支給が完了したことを報告する。

未申請者に対しては、申請漏れのないよう電話などでの勧奨を随時行っていく。

町独自の事業である「飲食店休業支援金」については、商工会に協力してもらい、5月15日、13店舗に対し支給を完了している。



生活支援助成券

「生活支援助成券」及び「マスクの配付」は、職員が5月18日から町内会ごと11班に分かれ、ご自宅を訪問し、5月22日には概ね配付を完了した。不在により配付できていない家庭については、家族と連絡をとり、郵送するなど全戸配付に向け対応しているところである。

今後も、新型コロナウイルスを想定した「新北海道スタイル」を着実に実践し、感染拡大の予防を町民の皆様と一緒に実施していきたい。

キャッスルガー市との姉妹都市交流について

キャッスルガー市と遠別町の友好を深めるため、タツソーニ新市長をはじめとする訪問団を招き、交流事業を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の発生により、日本及びカナダにおいても厳しい情勢となった。訪問団の来町については、キャッスルガー市より、お互いの健康と安全確保の観点からも事業実施を見送ることが最善ではないかとの連絡があり、当町としても今年度の事業実施を見送ることとした。また、遠別・キャッスルガー国際交流協会が実施している青少年相互交流事業についても、同様の情勢の中、当町協会とキャッスルガー市委員会との間で協議をし、派遣・受入する相互の家庭を考慮し、来年度へ延期することを決定した旨報告を受けている。キャッスルガー市との友好な姉妹都市交流・青少年相互交流については、

今後も市・交流事業関係者と連携を図り、引き続き事業を進めていきたいと考えている。



令和元年度キャッスルガー市表敬訪問



令和元年度青少年相互交流事業

第4回臨時会

6月22日の1日間を会期として開催し、補正予算1件、権利の放棄1件の合計2件の議案が提案され、原案どおり可決し、閉会した。

行政報告

・えんべつリゾート開発株式会社
の解散について

審議事項

◆権利の放棄について

主な補正予算

- ◆プレミアム商品券発行事業補助金 1,350万円新規
- ◆遠別農業高等学校入寮生支援事業助成金 144万2千円新規
- ◆感染拡大防止対策事業協力金 350万円新規

えんべつリゾート開発株式会社 の解散について

町長からの行政報告（抜粋）

第4回臨時会

えんべつリゾート開発株式会社は、平成2年10月に第三セクターで設立され、運営の主体である、レストランとんがりかんについては、水と緑のふれあいランド構想整備事業により、平成3年9月着手、平成4年4月に完成し、総事業費192,776千円で建設されたところである。平成4年8月1日にオープンし、富士見ヶ丘公園を中心として、遠別町の産業・観光の振興に寄与し、町民をはじめ多くの来館者に親しまれ、道の駅としての役割を担ってきたが、令和元年9月1日に直売所の営業を終了し、令和2年1月31日をもって、レストランの営業を終了したところである。去る6月3日、取締役会を開催し、定時株主総会により解散に係る事項が決議された。決議の内容については、えんべつリゾート開発株式会社の出資金は100%減資し、建物と、と

んがりかんについては町へ無償譲渡する。また、精算経費残余金については、町に寄附するということであった。以上の結果を踏まえ、えんべつリゾート開発株式会社は解散に係る手続き等を税理士及び行政書士の指導のもと進めている。えんべつリゾート開発株式会社代表取締役を始め、関係者におかれましては、地元食材を使ったメニュー、お客様のニーズにあわせたメニュー開発など創意工夫をされたこと、経営にも尽力をいただいていたこと、そして、28年間の長期に渡り、町民皆様のご理解ご協力のもと、遠別町のシンボルとしての役割を果たされたことについて、深く感謝申し上げます。今回の解散にあたり、町民の貴重な財産である債権を放棄するという苦渋の決断をしたところであり、出資金である45,000千円について権利の放棄を行うこととなり、心よりお詫び申し上げます。また無償で譲渡される、とんがりかんについては、施設の老朽化が進んでおり、

補修を含めた有効な活用方法について、内部でも検討し、町民の皆様、議員各位とともに、知恵をいただきながら進めていきたいと考えているので、ご理解のほどお願いする。最後に、道の駅の機能を担ってきた、とんがりかんに代わり、新たな道の駅えんべつ富士見についても、より町民の皆様を始め、多くの皆様に愛される施設運営に努めますのでよろしくご愛顧のほどお願い申し上げます。



とんがりかん（4月24日撮影）

シリーズ えんべつ町民 独占インタビュー Vol.4

◎遠別町の住民をピックアップし、まちの印象や、行政、議会に対する思いなどをインタビューし、議会活動に役立ていきます。

フレッシュ市場 花菜夢
会長 松澤 米子さん
副会長 石田 真理子さん

主な販売品

多種野菜、花、手作りパン、
大福餅、手工芸品、ジャムな
ど加工品

営業（日曜日）
10：30～16:00



花菜夢は、平成 14 年から活動をはじめ、今年、活動 19 年目で会員 17 名の団体です。活動当初は、年に 1 回、農協駐車場で、朝市などの活動から始まったそうです。その後、富士見の道の駅に活動を移しました。

「活動を始めたばかりの頃、お客さんに『いらっしゃいませ』を言うのも恥ずかしかったけど、今は積極的に声を掛け、お客さんにも『これ、どうやって食べるんですか？』など色々聞かれることもあり、自分達も勉強しながら接客している」と話されました。

また、販売品もはじめは、自分達の家で余った物を持ち寄り『やってみよう！』という感じだったが、今は、花菜夢の活動のために作っている感じで、レタスひとつとっても、何種類もの品種を作るなど、販売品数も増え『皆さんに少しでも変わった野菜を見てもらいたい』という気持ちでチャレンジされています。

平成 30 年度には、地域活性化への貢献が評価され、農林水産省の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」で優良な活動事例として全国に紹介されました。

現在、リニューアルオープンした『道の駅えんべつ富士見』で営業し、6 月第 2 週から 10 月第 2 週までの期間で 18 回の営業を予定しています。

例年、1 回目の営業の際に餅の配付を行っていましたが、コロナウイルスの影響で今年は餅の配付は取り止め、営業最終日にはお客さんに感謝の意を込めて雑煮を振舞っていましたが、現段階では検討中とのことです。

今後の活動予定は、道の駅での営業のほかに『留萌管内農村女性ネットワーク“オロロン”』が主催するイベント『農業まるごとふれあい広場』に出店する予定をしています。こちらのイベントにも機会があれば足をお運びいただければと思います。

インタビューの最後には、来年は 20 年目の節目の年で『本当によくやったなって思うから、何かしたいね』と話され、今後の活動にますます注目したい。

（文責：白井委員）

議員出席状況

令和2年5月1日～令和2年7月31日

区分 議員名	定例会・臨時会						常任委員会等				特別委員会			合計			出席率 (%) ⑥/⑤				
	出席内容			欠席内容			総務 産業 1	文教 厚生 1	議 会 運 営 1	全 員 協 議 会 3	議 会 報 発 行 2	決 算 審 査	予 算 審 査	開 催 日 数 合 計 ①+③	出 席 日 数 合 計 ②+④	欠 席 日 数 合 計					
	開 催 日 数 ①	全 日 出 席	遅 刻	早 退	出 席 日 数 計 ②	慶 弔												病 欠	そ の 他	出席内容	
							全 日 出 席 ③	遅 刻	早 退	出 席 計 ④	慶 弔	病 欠	そ の 他								
西畑 広男	3	3			3						5	5			5			8	8		100.0%
小森 嘉孝	3	3			3						7	7			7			10	10		100.0%
白井 金治	3	3			3						6	6			6			9	9		100.0%
柏谷 美春	3	3			3						5	5			5			8	8		100.0%
木村 秀雄	3	3			3						4	4			4			7	7		100.0%
千葉 光悦	3	3			3						4	4			4			7	7		100.0%
大石 幸夫	3	3			3						4	4			4			7	7		100.0%
山下 悟	3	3			3						6	6			6			9	9		100.0%
山本 仁美	3	3			3						5	5			5			8	8		100.0%

議会を傍聴してみませんか

次の定例会は**9月上旬**の開催予定です。

詳しくはテレビ電話でご確認ください。

【お問い合わせ】

議会事務局

電話 7-2147 (直通)

メール gikai@town.embetsu.hokkaido.jp



タイトル写真



8ページのタイトル写真は、6月28日フレッシュ市場 花菜夢様にインタビューに伺った際に撮影いたしました。

発行：遠別町議会

編集：議会報発行特別委員会

委員長 小森 嘉孝

副委員長 山下 悟

委員 白井 金治

あとがき (山下委員)

今回の「えんべつ町民独占インタビュー」ではフレッシュ市場 花菜夢、前は商工会女性部の皆さんを取材させていただきました。管内でも類を見ない誇れる各団体と思います。本町は女性が活躍する機会も多く、また、働き方改革の背景に女性がさらに活躍することが予想されています。どの業種でも後継者問題がありますが、我々も協力しながら、技術・知識が絶えず、受け継がれるよう継続してもらいたい。

